

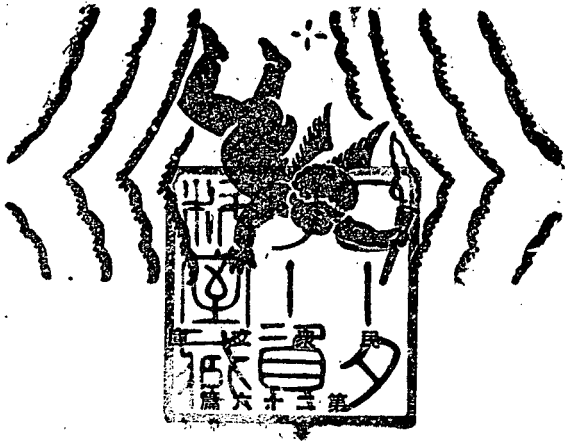
米山梅吉述

ロータリー・クラブ

財団法人 社會教育協會

ブラク・ーリターロ

吉 梅 山 米



人 法 團 財
會 協 育 教 會 社

目次

國際的職業人の結合	一
ロータリーの主義精神	三
情は人の爲めならず	五
ロータリーの發達と組織	六
特色ある集會	一〇
久遠普遍の金則を信奉	二二
【附録】	
汎太平洋ロータリー大會に臨みて	三
國際ロータリー會長 サツトン氏	三

ロータリー・クラブに就て

三井信託株式會社長 米 山 梅 吉

國際的職業人の結合

去年十月の初め我が東京に於て太平洋ロータリー聯合會が催され、南北兩米・濠洲・新西蘭・支那其他の沿岸各國より代表出席せるもの、其家族を併せて百八十人に垂んとし、日本の同會員の出席者と合せて五百人を越えたる多數が、會議に饗宴に四日間の日程を盛況裡に了ることを得ましたのは、誠に愉快のことでありまして、特に其重なる晚餐會には、此程薨去遊ばされたる故久邇宮殿下の台臨を仰ぎ、殿下が深くロータリーの主義精神に御共鳴の難有き御言葉を拜することのできましたのは、永久に會

員の敬意を表し且つ忘るゝ能はざる所であります。

當時出席中の國際ロータリー會長サットン氏は一日此放送により、ジャバンタイムスの芝氏の通譯を以て、ロータリーに就き講演いたしました中に、凡そ人類の歴史に於て、國家・民族・宗教・言語を度外し、其組織ロータリーの如くにして而かも四十餘箇國を抱合ふと云ふが如きものは、未曾之あらざる所なりと申して居ります。

想見まするに、近年國際的各種組織の我邦に移し植ゑられたるものが少くありませんけれども、其の或ものは日本の地味に適應せず、或は其發育を見るも花を著けず、或は花を見るも其實を結ぶに至りませぬ中に、ロータリーの組織は最も善く我が地味に適應して健全なる發育をなし、今や東京の外大阪・名古屋・神戸・京都・横濱・京城・大連を合せて八個のクラブが出來、遠からず奉天にも其の設立を見んとして居ります。畢竟是れロータリーの主義精神が政治宗教を超越し、人種國境を度外視し、世界の實業人職業人が一つにサーヴィス即ち奉仕を道德標準とし、各自が愛郷愛國の公民として其

能力を發揮し、相互の諒解を進め好感を養ひ、以て國際平和を助長せんとする、公平無私なる友誼觀念より出發提携いたして居るが爲めに外ならないからであります。

ロータリーの主義精神

ロータリーが或る種の秘密結社の如く疑はれましたのは過去の事に屬し、ロータリーの主義精神は今や已に世間に明かとなりました。ロータリーは其組織の目的として左の六項目を掲げて居ります。

- 一、サーヴィスの理想を總て有用なる事業の根底に培養すること。
- 二、實業上職業上に高尚なる道德標準を設定すること。
- 三、全會員をしてサーヴィスの理想を各自の私生活・事業生活並に社會生活に適用せしむること。
- 四、サーヴィスを爲すの機會としての交誼を助長發展せしむること。

五、會員をして總て價值ある職務の貴重なる所以を認めて各自の職務を社會に向つ

てサーヴィスをなすの地位機會として其の威儀を尊重すること。

六、サーヴィスの理想に結合したる實業人並に職業人の世界的團體を通じて廣く人

類社會の相互諒解と好感と國際平和とを益々促進すること。

以上の目的をコンデンス致しまして、ロータリー・クラブは左の二つの標語を有する

のであります。

曰く 自我に先立つサーヴィス

曰く 最も善くサーヴィスをなすものは、最も多く利益す。

斯くて此サーヴィスの理想を反譯して日常生活に移し、會員の立脚基準となすが

ために、更に十一ヶ條より成る道徳信條なるものを有する以外には、特別の主張もな

く又誓約の類もなく、而して之が會員たるは入會を申込に待つにあらずして、クラブ

の側より撰擧するのであります。

情は人の爲めならず

凡そ人間の良心に基く眞理は古くして且つ單純であります。寒さ暑さと嬉しさ悲しさとは、何千年の前人類の社會をなせる始より毫も異なる所はない。人間の生活を指導すべき基礎的道徳觀念は、先以て自我を超越すると云ふことにあるので、孔子は「己の欲せざる所に施す勿れ」と教へ、耶蘇は「己の欲する所を人に施せ」と説きし如く、埃及・波斯亞の昔よりモハメッド又はモセスの訓も皆其の歸する所は同じで、其他有ゆる聖人君子の言説は悉く此金則の註釋に過ぎません。ローマの訓に「抑も人間の心臓に印刷される法律とは己の願ふ如く人にも許せと云ふことなり」とあるは、如何にも然りとすべきであります。之は佛敎より來れるものならんが、我邦にも「情は人の爲めならず」と言ふが如きことあり、又「我身を抓つて人の痛さを知れ」の諺もありまして、是皆な同様の眞理を言現はせるものであります。

然るに個人利害の衝突が合して群集の争闘となり、延て精緻なる武器による國と國との戦争となり、更に其の經濟力の戦争を稱ふるに至り、一方に軍備縮小會議又は不戰條約等の提唱もありますけれども、國際の平和は獨り政治外交にのみ依頼すべきに
 あらず、社會は其表面の進歩と共に裏面は往々退歩を疑ふ迄に反覆いたしました、寧ろ益々困頓の状態に在ります。人類共同生活の根本義に遡つて其反省と節制とを要すること最も切實なる今日、殊に近代社會組織の要素として實業が最も重きをなすの
 今日、専ら實業人職業人の團結より成るロータリー・クラブのようものが現はれ、而して其發展の著しいのは蓋し偶然にはあらずと考へます。

ロータリーの發達と組織

ロータリー・クラブが呱呱の聲を挙げましたのは實に二十四年前の今月今日で、恰も燎原の火の如き勢を以て、米國內の各都市は勿論、忽ちカナダより英國に蔓延し、

南米に及び東洋に飛び、歐洲各國にも到處に亘りて之が設立を見ざるなく、サットン氏の言へる如く、ロータリーは此に歴史上未曾て見ざる偉大なる組織を示し、四十四箇國を抱括してクラブの數三千を越え、ロータリアンの人數十四萬を突破いたしました。ロータリアンは各地平生其屬するクラブに集るのみならず、旅行せば亦た到處のクラブに出席いたし、汽車の中にも船の上にもホテルの廊下に於ても必ずロータリアンあり、呼べば即ち答ふると云ふ風であります。ロータリアンは其組織の由來と意味を表する、車輪の形に取りました徽章を帯びて居りますので、互に直に相知ることが出来ます。或は世界遊覽船の日本に來るような場合に、無線電信によりて中に幾許の會員あるかを知り、其の上陸を待ちて之をクラブに迎へたりいたしましたして、所謂一見舊相識の如く、以て互に交歡もし亦たロータリアンたるの義務をもなすのであります。

國際ロータリーに加盟せる順番よりすれば、日本は第十二番目に位して恰も十年前

のことであり、而して東京を首め、現に八箇所のクラブを有することは前に言へるが如く、會員の數は合計四百十六人であり、各クラブには會員は一人必ず一業を代表いたします。實業並に職業の種類別は實に多種多様に屬しますれども、豫め設けたる一定の標準があります。中には事業上の連絡又は兼業等により往々重複を免れざる場合もあれども、要するに其人の其事業に與かる關係が、六割以上の重要さを有するものを採ると云ふことを原則といたして居ります。

斯の如くにして毎週定日の午餐會には必ず出席を期し、若し承認し難き理由により缺席連續四回に及ぶものは、退會することの定めであります。是れ不熱心なる會員のために、其代表する事業に他の適當なる候補者あるも、其れが會員となるの機會を妨げるのを避けんとするものであります。此他にも尙ほ守るべき規則又は慣習なきにあらざれども、要するにロータリークラブの特徴は、其職業類別と出席率に重きを措くに在ります、代表と云ふと雖ども、其事業の大小又は其人の年所等は問ふ所にあらず、

要は會員のサーヴィスを理想とする素質に存し、其人の道德が其職務を代表して疚しき所なしてふ、信念に立つのであります。

以上の如く比較的嚴格なる方則の下に集まるロータリアンは、偏にサーヴィスの理想に結合して友誼を厚くし、各自の代表する職務を通して、互に相輔佐し互に相提携し、出で、各々其の向ふ所に従ひ以て社會の福祉に貢獻せんとするものであり、人間生活の理想並に進歩の水準を向上せしめんとするがために協力するものであり、其地方に於て、其一國內に於て、將た國際間に於て、相互の諒解好感を助長し世界の平和に資せんとするものでありますので、各クラブは即ちサーヴィスの理想實験の研究室と云ふべく、國際ロータリーの活動は此人道共通の立脚基準則ちサーヴィスの旗幟を世界に翻すに在ります。要するにロータリー哲學は、自己の欲求と他人に奉仕せんとする義務觀念との間の衝動又は争鬭を調和せんとする、日常處世の指針なりと申して宜からうと思ひます。

特色ある集會

ロータリーは毎年一回歐米何れの地にか國際大會を開くのでありますが、其國の主權者又は代表は必ず之に臨まるゝの光榮を有し、各都市は之が開催地ならんとして競争の勢に在ります。次に地方の聯合會あり、更に國內又はヂストリクトの集會あり、各個クラブには例會の外に時々家族會等あり、而して前に申した通り今月今日はロータリー發祥の記念日として、今夜又は今週中の一夕必ず各クラブに晚餐會の催しがありまして、世界到處のクラブは盛會を極めます。此記念會の特色として各クラブは必ず或題目を定め之を中心としてプログラムを作るので、或は財政、或は外交、或は自治制、或は文學若くは出版と云ふが如く、而して特に其題目に因縁ある人士を招待して演説を乞ひ其他の趣向を凝らすを例とす。今夕東京ロータリー・クラブは横濱クラブと合同にて其催をなし、而してコンムニケーション則ち通信と云ふことを其中心

題目と致して居ります。

蓋し通信機關の發達は、歴史上最も驚くべき事實にして、爲めに世界は益々接近し地球は愈々縮小せるの感あり、飛脚が郵便となり、蒸汽船又は鐵道より電信に到る迄極まる所なく、其最も微妙なるラヂオと電送寫眞の實用を見るに至りて、驚くべきこと如鬼神など云ふ形容詞は全く無用のものとなりました。余の知る所誤りなくんば、電送寫眞の試験が始めて好結果を示せるは一九〇四年獨逸のコルン教授の手に成り、ラヂオに於ては一九〇六年フエツセンデンの研究が十哩の距離にて成功せるを始と致します、ロータリー・クラブがシカゴの一辯護士ポール・ハリスによりて發起せられたるは、恰も一年置きに電送寫眞とラヂオの發明が成功せる、其中間の一九〇五年に在るのは、偶然の符合と申すべきか、而してロータリーも亦た道德的に一種不思議の通信機關なりとも謂ふことが出来ませう。

久遠普遍の金則を信奉

過去二十餘年間電送寫眞もラヂオも益々改良進歩を致しまして、凡そ通信の極致は最早此上なかるべしと思はる同一時刻に多數人が異なる場所に、其顔を見其聲を聴きつゝ快哉を叫び、土地を距てゝ其實景手に取るが如きものあるに至つて、所謂スベース・アンニヒレーション則ち空間の破滅と云ふことの如何にも然りと思はるのであります。サーヴイスの理論と實行を世界に宣傳して空間なからしめんとするのは、是れロータリーの理想であります。こゝにロータリアンとして余の放送を終るに當り次の如く申上げたい。我等は爾他人より施されむと欲する總てを他人に施せてふ、彼の久遠普遍の金則を信じ、我等の社會なるものは、此渾圓球上の自然の寶庫に、萬人が均等なる機會を以て處する時に於て、始めて善く結合さるゝものなりとの主張を持論とすと。

(昭和四年二月二十三日東京中央放送局に於て放送)

汎太平洋ロータリー大會に臨みて

國際ロータリー會長 トム・サツトン

解説 芝 染太郎

ラデオを通じまして、私が日本の諸君に今夕御挨拶をするといふ事は、私の更に豫期を致しませなんだ所でございまして、今夜其の光榮を有ちまする事を甚だ私は満足に存じます。また日本に参りまして以來、凡ての方々から熱誠なる御歓迎を受けまして、私のみならず、一行總て多大の感謝を捧げたいと思ひます。

さて聴取諸君の多くはロータリー・クラブの性質を御承知でございませうまいが國際ロータリー・クラブと申しますのは、現在世界に四十四箇國ありまして、其の四十四

箇國の中に約三千のクラブが存在し、會員の總數は約十四萬人に達して居ります。で東京の此のロータリー・クラブは八箇年前に初めて創立されたものでございまして、國際ロータリー・クラブ中では第十二番目の創立に屬して居ります。さうして東京ロータリー・クラブは目立つて活動をして、いろいろさまざまなる方面に力を入れて居るのでございします。

二

此のロータリー・クラブの會員は一業一人の代表的人物を以て組織され其のロータリー・クラブ員の信條とする所は、所謂奉仕の觀念、自分の事よりも他人の爲にならなければならぬと、斯ういふ信念を以て、それを日常生活の金科玉條として居るのでございします。それでロータリー・インターナショナル、即ち國際ロータリー・クラブは、斯様なサービス・アポープ・セルフといふ理想を全世界に普及し、宣傳するといふ事を目的として存在して居る次第でございします。

そこで其の四十四箇國に散在して居ります各クラブは、只今申上げました奉仕の精神を實現する爲に、互に連絡し相互に援助して、其の目的を達せんと試みて居る次第でございます。さうして此のロータリー・クラブの信條の第六條には、國際間の了解或は親善を促進する事に努力せねばならぬといふ事があります。是は甚だ大切な所の信條の一つでございます、私は今日の好機會に、全世界十四萬のロータリアンの好意と感謝とを日本の諸君にお傳へ致したいと存じます。

ロータリー・クラブは二十二箇年前に、即ち明治三十八年に創立されたものでございまして、以來急速の發展をして居ります。さうして諸種の國際間の問題に當面して段々重きをなされ、重要さを加へて居るやうな有様であります。今後尙ほ此のクラブ員各位が國際協調の爲に努力を致しますならば、世界の文化及び國際的親善に貢献する所が少なからぬ事と私は確信して居ります。

扱て此の人類の歴史上、人種或は宗教、或は言語の相違を超越して、四十四箇國の人民が一つの組織の下に、同一の理想に共鳴して行動したといふ事は、甚だ稀なる事でございます。ロータリー・クラブあつて初めて此の理想が實現しつゝあると私は信じます。若しも皆様の前に私が地圖を開きまして、斯ういふ所には斯く斯くのクラブがあり、其處で斯ういふ活動をして居るといふことをお目に掛ける事が出来ませうば、甚だ仕合せであります。今夕は其の機會を得ない次第でございます。

そこで私自身は米國人でございます。メキシコにもう十數年居住をして居ります。其のメキシコは面積が日本の三倍位で人口は日本の六分の一、海拔七千六百尺、海岸線も六千哩位ありまして、氣候は全體に極く溫和でございます。其の中には美しい景色もあるし、日本の富士山よりもまだ高い山もあるといふやうな具合でございます。此のメキシコには現在ロータリー・クラブが四十程設立され、將來は百にもなす。

ん決心を以て、私共は努力をして居る次第でございます。此の美しいメキシコに諸君がお出で下さいまして、メキシコの溫和なまたカルチユアルな人々と接觸をして下さるやうな機會のあらん事を私は希望致します。

序でに英吉利に於ては、此のクラブがどういふ具合であるかといふ事を申し上げます。英國には二百九十のロータリー・クラブが現存し、其の數は毎年約三割三分位の増加を示して居ります。

私は此の世界中にあります四十四箇國のクラブの中、二十四箇國のクラブを歴訪致しました。其の度に各クラブが國際的親善の爲に力を盡し、相互了解を放つて居る實際を見まして、常に喜んで居る次第でございます。

四

此のロータリーの理想、精神は特に新しいものではございません。詰り昔から人間の心の裡に自然に兆したる所の理想でございます。ロータリーの眞理は人間共通のも

のでございまして、今日私共が之をロータリー・クラブといふ組織に依りまして、其の理想を實現せんとして居りまする所は、昔から人々の心の裡には兆したものでございまして、單に今日の如くそれが廣く行はれなかつたといふだけでございまして。詰り人類の交通が段々繁くなりまして、其の知合ひの範圍が廣くなるに従ひまして、此の理想を世界中に一つ擴めて見たい、斯ういふのがロータリーの希望する所でございます。

人間はそれ〴〵異つた希望と慾望を持つて居りますので、其の目的を達せんが爲には、是非其他人と一緒になつて共同共存をせねば、自分の希望も慾望をも成就するとは出來ぬ事は當然のことでございます。其の共同共存といふ事は、同じ目的を持つて居る者が互に援け合ひ、互に補ひ合ふといふことに外ならないと信じます。それで其の目的に向つて吾々は不斷の努力を拂つて行くといふ事が、各人の使命であると心得て居ります。

そこで社會に多種多様な所の要求があると致しますならば、其の社會に於て最多數の幸福を圖る共通の法律が生れて來ねばならぬ譯でございませう。併しながら法律といふものは、各國人民多數の多年實行して來た習慣や、或は風俗を、法文に書直したものに外ならない。それゆえ一國の法律の中には、不届な分子や何かゞ存在した事は、免れない。單に法律の力では人民に幸福を與へる事は決して出來ないのであります。そこで其の習慣、風俗の上に道徳心を加へ、徳義の篩に掛けまして、社會を道徳化せんとする事が吾々の理想とする所で、之が最も實世界に必要である所であると私は信じます。それが尙ほ世界四十四箇國に現在あります所のロータリー・クラブの共々に協力して努力をせんとする所の點でございませう。

五

世の中にはロータリー・クラブと限りませず、他にもいろいろな會があります。其の活動の結果が社會に與へる影響の如何に依りまして、善惡の判断がさるゝのでござ

ございますからして、私は切にロータリー・クラブの會員の智慮ある行動が、社會に於けるロータリーの名聲を高め、自然に一般社會から稱讚の的となつて、一步々々吾々の目的を達成する事に至らんことを、既にロータリーの會員となつて居られる諸君に切望して已まぬ譯でございます。

私はまだお目に掛りませぬ、まだ知合つて居りませぬ所の日本の各地に於ける同胞の方々に深く今晚お禮を申しまして、私共に與へられました所の歓迎を謝する次第でございます。

(昭和三年十月三日東京中央放送局にて)

民衆文庫

第一篇	今上陛下の御聖徳
第二篇	紋章の物語
第三篇	肺結核は斯うすれば治る
第四篇	公共劇の理論と實際
第五篇	魚の生活
第六篇	通俗海洋學
第七篇	氣象二百年十日
第八篇	米國女子青年團運動
第九篇	新兵器と化學戰
第十篇	曆の知識
第十一篇	御大禮の物語
第十二篇	郷土藝術
第十三篇	煙草の藝術
第十四篇	國産品の振興
第十五篇	やきもの話

宮内省御用掛	二荒芳徳氏
醫學博士	沼田頼輔氏
農學士	額田豊氏
水産講習所	仲木貞一氏
技師	内田惠太郎氏
理學博士	淺野彦太郎氏
文部省囑託	藤原咲平氏
片岡重助氏	陸軍省編
理學博士	藤原咲平氏
式部長官公府	伊藤博邦氏
九州帝大教授	小出瀧二氏
專賣局參事	涌井直次郎氏
國産振興會編	小野賢一氏

第十六篇	皇太后陛下の御坤徳
第十七篇	體育運動の話
第十八篇	登山の話
第十九篇	愛國運動リコール
第二十篇	唯物史觀と基督教
第二十一篇	副業のすすめ
第二十二篇	家庭經濟の話
第二十三篇	米國大統領フーヴァー
第二十四篇	謡曲の話
第二十五篇	支那當面の人物蔣介石(人及び事業)

次號豫告

文部省 囑託	田口 憲太氏
體育研究所長	北 登吉氏
	岡部長 量氏
チエツコ公使	サラトナイ氏
	小平國雄氏
	農林省副業課
	嘉悦孝子氏
日本女子商業學校長	古莊國雄氏
	須藤三石氏
	古莊國雄氏

第二十七篇 (五月五日發行)

海國とその婦人

海軍省編

昭和四年四月二日印刷
昭和四年四月五日發行

民衆文庫第廿六篇

ロータリー
クラブ
不許複製

著者 米山梅吉

編輯者 財団法人社會教育協會代刊者
小松謙助

印刷者 下川隆博

東京市神田區美津保町七番地

平凡社印刷所

發行所

東京市小石川區
白山御殿町一二七

財団法人
社會教育協會

電話 小石川七五〇九
原番口區東京二一八三

